

立川市教育委員会 殿

学校名 立川市立第九小学校  
校長名 押本 明文

令和7年度 教育課程について（届）

このことについて、立川市立学校管理運営規則第12条に基づき、下記のとおりお届けします。

1 教育目標

（1）学校の教育目標

○思いやりのある子

互いを大切にする思いやりの心や、協調したり感動したりする心をもつ、心豊かな児童を育成する。

◎自ら学ぶ子

基礎的な知識と技能を身に付け、自分で考え、自信をもって行動する児童を育成する。

○たくましい子

将来に向けて希望をもち、すすんで体を鍛え、たくましく自立できる児童を育成する。

（2）立川市教育委員会学校教育の指針を踏まえた学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 思いやりのある子を育成するために

- ・生命を尊重する教育を徹底するとともに、全教育活動を通して人権教育の全体計画に沿って、人権教育を推進し、いじめのない豊かな人間関係を構築する。
- ・問題行動への未然防止、早期発見・早期対応に努めるとともに、不登校について、関係諸機関との連携を密にし、組織的・継続的な指導を行い、不登校要因の解消を図る。
- ・特別支援学級・特別支援教室との連携を深め、交流及び共同学習、理解教育を充実させるとともに、相互理解を深め、人権意識や人権感覚を高める。

イ 自ら学ぶ子を育成するために

- ・一人1台タブレット・PCの活用を通して、ねらいが明確でどの子も自分のめあてをもち、主体的・対話的で深い学びを実現させる授業づくりを展開し、基礎・基本の確実な習得と情報を活用する力・考える力の育成を図る。
- ・各教科を中心に言語活動を充実させ、自ら課題を見だし、解決していく学び方となる探究的な学習を重視し、児童の学力の向上を図る。
- ・立川市民科や総合的な学習の時間等で地域と連携した活動を充実させ、社会に貢献する心や、主体的に考え実践する力を育成する。

ウ たくましい子を育成するために

- ・東京都統一体力テストの結果を踏まえ、運動・スポーツに親しむ児童を育成するとともに、体力向上推進月間を設け、体力の向上を図る。

エ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項

- ・校内委員会を定期的開催するとともに、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）、個別指導計画の作成と活用することで、組織的・計画的に特別支援教育を推進する。
- ・カリキュラム・マネジメントを推進し、地域と連携した活動を充実させる。
- ・コミュニティ・スクールの充実を図り、学校関係者評価や地域学校協働本部、学校ホームページ等を生かして、社会に開かれた教育課程を推進する。
- ・「立川市学校における働き方改革総合プラン」を踏まえ、校内組織を見直し、教職員の働き方改革を推進し、教育活動の充実と学校教育の質の向上を目指す。

## 2 指導の重点

(1) 学習指導要領及び生徒指導提要进行を踏まえた各教科、特別の教科 道徳、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間、特別活動、立川市民科における指導

### ア 各教科

- ・確かな学力の育成を目指して、年間指導計画に基づく週ごとの指導計画に沿った指導により、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けられるようにする。
- ・個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業を推進するとともに、授業改善推進プランを活用し、問題解決的な学習と言語活動の充実を図る。
- ・「東京ベーシック・ドリル」の活用、地域未来塾事業を活用した放課後補習教室やサマースクールの実施、理科教育推進事業を活用した授業改善により、児童の学力を向上させる。
- ・主体的・対話的で深い学びを実現し、学び方を身に付け、思考力、判断力、表現力等を高めるとともに主体的に問題を解決する力を培う。
- ・体験活動や話し合う活動を積極的に授業に取り入れ、言語活動の充実を図り、根拠を基に自分の考えを自分の言葉で伝える力や互いに理解し合う力を育成する。
- ・児童の実態に応じて3年生以上で教科担任制を導入し、基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等のより一層の育成を図る。
- ・一人1台タブレット PC を活用した ICT 教育を推進するとともに、プログラミング教育を実施し、論理的な考え方を身に付けられるようにする。
- ・東京都統一体力テストの結果に基づく「授業改善推進プラン」を活用した体育の授業改善を推進し、児童の体力の向上を図る。

### イ 特別の教科 道徳

- ・問題解決的な学習や体験的な学習、言語活動を充実させ、学校全体で道徳的な心情や実践的な意欲と態度を養う「考え、議論する道徳」の授業を展開する。
- ・道徳教育推進教師を中心とした研修や指導体制により、自らの成長や課題、目標を見付けられる振り返りを蓄積しながら、道徳性を養う。

### ウ 外国語活動・外国語

- ・ALT を活用しながら外国語活動・外国語を実施し、日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深め、多様な考え方があることに気付かせるとともに、積極的なコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・多文化共生の視点に立って、国際社会に生きる日本人としての自覚を促し、自国の文化や伝統についての理解を深める。

### エ 総合的な学習の時間

- ・探究的な学習の中で、体験的な活動や調査活動、言語活動等を通して、地域の人との関わりから自らの課題を設定し、学ぶ意欲、追究する方法、まとめ伝える力を高められるようにする。

### オ 特別活動

- ・自主的、実践的な集団活動を通して、課題を見付け、解決するために話し合い、協力して実践し、振り返るとともによりよく改善しようとする児童を育てる。
- ・ソーシャルスキルトレーニング的な手法を取り入れ、他者と合意形成を図ったり、意思決定をしたりすることができる児童の育成を図る。
- ・児童会活動やクラブ活動などを通して、多様な他者と協働して活動する行動の仕方を身に付けるとともに、個性の伸長を図る。

### カ 立川市民科

- ・砂川楽（第1・2学年）、砂川学（第3～6学年）をテーマとする地域に根ざした探究的な学習等を通して、まちを大切にしようとする思いやコミュニケーション能力を育成する。

## 小・第2表の2

学校名 立川市立第九小学校

### (2) 特色ある教育活動

- ア 地域人材による学習支援授業を各学年で展開して、学習内容の基礎・基本を確実に身に付けられるようにする。
- イ 司書教諭や学校図書館支援指導員、読み聞かせボランティアと密に連携し、計画的な読み聞かせや学校図書館の整備、読書旬間の取組等を通して、本から学ぶ楽しさを味わうよう読書習慣を定着させ、読書活動の充実を図る。
- ウ 食育などの指導計画に基づき、野菜作りや味噌作り等の体験活動を行い、児童の「健康で安全な食」への興味・関心を高め、探究する力や望ましい食習慣を養う。
- エ 市民力を活用した立川市民科の活動やクラブ活動（和太鼓クラブ）等を計画的に実施する。
- オ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を意識し、落ち着いた教室環境と分かりやすい教材・教具を整え、特別支援教育を推進する。
- カ たてわり班活動や特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を一層充実させ、相互理解を深めるとともに、共に協力し、共に生きる態度を育てる。
- キ 学校 2020 レガシーを推進するとともに、日常的な運動の習慣化を図り、なわとび旬間（短縄・長縄）、持久走旬間等、体力向上に向けた取組を継続的に行う。
- ク 家庭学習推進リーフレットの活用や読書活動の充実等を図ることで、家庭での学習習慣を定着させる。
- ケ コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会と連携し、保護者や地域の教育ニーズを捉え、学校ホームページ等にタイムリーできめ細やかな情報発信をし、保護者や地域社会の教育への参画と開かれた学校づくりを推進する。

### (3) 生活指導

- ア 生活目標を踏まえた取組を児童に考えさせ、自主的に実践させることを通して、基本的な生活習慣の定着と自己指導能力の育成を図る。
- イ 「挨拶」と「言葉遣い」の指導を徹底し、自他を尊重する心情や態度を養うとともに、良好な人間関係を築けるよう支援する。
- ウ 九小いじめ防止基本方針に基づき、いじめ対策委員会を中心としたサポートチームを中核にし、校内外の報告・連絡・相談体制を充実させ、心理調査分析を活用するとともに、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努め、温かい人間関係を築こうとする実践力を育成する。
- エ 不登校解消に向け、関係諸機関等と連携した学校復帰を含めた社会参画に向けた取組を実施する。また、校内に教室以外の居場所を確保し、充実を図るとともに、月1回の不登校対策委員会で組織的な取組を推進する。
- オ 防災教育、交通安全教室、セーフティ教室、薬物乱用防止教室等を通して、児童が健康で安全な生活を送り、自助・共助する態度や能力を計画的に身に付けさせる。

### (4) 特別な配慮を必要とする児童への指導

- ア インクルーシブ教育システムを推進し、特別支援学級と通常の学級における交流及び共同する学習活動を通して、他者との違いを認め、共に生きる意識と態度を育てる。
- イ 特別な支援を必要としている児童に対して、組織的なサポートチームによって、計画的な支援活動を図ることで、特別支援教育を充実させる。

### (5) 進路指導

- ア 「立川夢・未来ノート」及び特別活動やキャリア教育の全体計画に沿って指導を行い、自己の生き方について考えを深めさせ、主体的に社会と関わり自己実現を図ろうとする意欲や態度、未来を切り拓こうとする力を育てる。
- イ 幼稚園・保育園との連携及び小中連携教育、近隣小学校との連携教育を通して、スタートカリキュラムを含めた12年間の円滑な接続を図る。また、中学入学時の不安を緩和し、希望をもって進学できるように支援する。